



TITLE:

計画10-1 中国地方東部におけるニホンザル地域個体群の分布調査(V 共同利用研究 2.研究成果)

AUTHOR(S):

渡邊, 義雄; 林, 勝治

CITATION:

渡邊, 義雄 ...[et al]. 計画10-1 中国地方東部におけるニホンザル地域個体群の分布調査(V 共同利用研究 2.研究成果). 霊長類研究所年報 2000, 30: 115-115

ISSUE DATE:

2000-10-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/165368>

RIGHT:

計画10-1

中国地方東部におけるニホンザル地域
個体群の分布調査
渡邊義雄（美作女子大）、林勝治（広島県立大）

中国地方東部において、ニホンザルの分布調査を行った。岡山県では、質問紙による調査で集団が存在すると推定できたのは15市町村であった。これをもとに聞き取り調査を行った結果、22集団が推定できた。県東部では和気町周辺地域に限られるが、県西部では新見市周辺から芳井町周辺まで広く分布している。個体数の推定では、餌付け集団を除く20集団の個体数の最小値と最大値の合計はそれぞれ 605頭と 795頭であった。ニホンザルの生息地における植生や気候などの環境条件が分析された。その結果、ニホンザルは二次植生に依存する割合が高いことがわかった。また、ニホンザルはやや寒冷地に分布する傾向があることがわかった。

鳥取県の質問紙調査では、東部の八東町と西部の日南町にニホンザルの群れが生息しているとの報告があった。八東町には4群で約100頭が生息していると推定された。南側に隣接する若桜町での聞き取り調査では、1974年から1978年にかけて日本モンキーセンターの指導により百数十頭が捕獲された。若桜町では現在、ソリタリーの生息が確認されているだけで群れはいないようである。質問紙によると、八東町の北側の国府町では、小さな群れが生息している可能性はある。日南町の東側の日野町は聞き込みによるとソリタリーに出会うことがあるが、群れの確認は出来ていない。今後は日野町と八東町周辺の農作物の被害が深刻な地域を中心に群れの確認の調査を行う。

計画10-4

黒部川流域に生息するニホンザル個体
群の動態（ダム建設に伴う遊動域の変動）
赤座久明（富山県立雄峰高等学校大沢野分校）

富山県宇奈月町の黒部川流域に生息するニホンザル自然群を対象にして、ダム建設に伴う遊動域の変動を調査した。調査期間は99年4月から2000年3月までの12カ月で、毎月3回以上のモニタリング調査と、夏、冬に7日間の集中調査をおこない、合計52日間観察した。

宇奈月温泉の上流600m地点に建設していた宇奈月ダムが完成し、99年10月から貯水が始まり、2000年3月に満水状態になった。ダム周辺に生息している群れのうち、98年以前から継続観察をおこなっているON群、MO群、MT群のホームレンジの面積と位置をダム完成の前後について比較すると、以下ようになった。

98年4月から99年3月まで（98年度）のホームレンジと、99年4月から2000年3月まで（99年度）のホームレンジを比較するとON群11.7㎢・11.4㎢、MO群3.3㎢・4.2㎢、MT群5.9㎢・11.1㎢となり、MT群のホームレンジが大きく拡大していた。拡大の方向は3群とも下流方向で、前年度に比べ、ON群が1800m、MO群が400m、MT群が1200m下流方向へ進出した。このことから、ON群は面積を維持しながら下流側にホームレンジ全体を移動させているのに対して、MT群は下流側に大きく進出してホームレンジを約2倍に拡大していることが分かった。MT群の98年以前のホームレンジはダムの水没地域と大きく重複しており、今回観察されたMT群の変化は、ダム建設による影響が大きいと考えられる。